

二学年 古文 休業中課題 (PDF版 B5二枚) 教科書 p26 「九月ばかり」 出典『枕草子』( )組( )番( )  
 左の語句の意味や助動詞の意味などを調べて、現代語訳せよ。(印字するかノート等に写してやる。6月の授業で点検)

九月ばかり、夜一夜降り明かしつる雨の、今朝はやみて、朝日いとけざやかにさし出でたるに、前栽の露はこぼる

ばかり濡れかかりたるも、いとをかし。透垣の羅文、軒の上などはかいたる蜘蛛の巢のこぼれ残りたるに、雨のかかり

たるが、白き玉を貫きたるやうなるこそ、いみじうあはれにをかしけれ。

読み・意味・品詞	けざやかなり ( ) 詞	透垣(教科書の図)	文法問題	3 「かき」は(動詞 「かく」の) の 音便)	6 いみじう(活用 音便) 形
九月		羅文(教科書の図)	1 つる( ) 詞 形	の 助動	
今の( )月頃	前栽(教科書の図) ( )の( )	こぼ(壊)れ残る	の( ) 格の助詞)	2 たる a ( ) の助	4 やうなる( ) 詞 形
夜一夜	こぼ(零)る	いみじ( ) 詞	たる b ( ) 動詞 形	の助	7 あはれに(活用 音便) 形
いと( ) 詞	をかし( ) 詞	あはれなり ( ) 詞	☆「たる」などの下 に省略されている 語は何か。( ) 動詞 形	5 こそ( ) 詞	8 をかしけれ(活用 音便) 形

少し日たけぬれば、萩などの、いと重げなるに、露の落つるに、枝うち動きて、人も手触れぬに、ふと上ぎまへ上が

りたるも、いみじうをかし。と言ひたることどもの、人の心には、つゆをかしからじと思ふこそ、またをかしけれ。

1 ① 「をかし」と② 「あはれなり」の趣の違いを説明せよ。

2 10 「重げなる」理由を述べよ。

3 12の下「ふと上ぎまへ上がりたる」理由を述べよ。

4 ① 2 a 「言ひたる」の主語は誰か。また、② 「人」とは誰のことか。

5 本文からわかる筆者の人柄を述べよ。

読み・意味・品詞		文法問題		活		助	
ふと	ふと	9 ぬれ( )	10 重げなる( )	13 「つゆ」は( )	15 詞)で「じ」と	16 「こそ」の結び	15 じ) の助
上ぎま	上ぎま	ぬれ( )	11 うち( )	呼応(つゆ)じし	て、( )	の語は( )	16 ( )で( )
重げなり	★ 「つゆ」は「	「条件	12 ぬ( )	助動詞	14 をかしから	出典( )	仕えた中宮( )
( ) 詞)	意味の( )	「ことばの	( )	( )	( )	( )	( )

